第３章

亀岡市の歴史文化の特徴と関連文化財群

第１節　亀岡の歴史文化の特徴

亀岡の歴史は、奈良時代に丹波国府が置かれたことに起因する丹波国の政治経済の中心地としての側面と、平安時代に東隣に都が置かれて以後、京都と山陰道諸国、摂津国、丹後国を結ぶ交通の要衝としての側面をあわせもつ点に特色があります。

亀岡の文化は、丹波国の中心地としての文化と隣接する京都・摂津国や奥丹波、丹後、山陰道諸国からの文化が混在し、醸成されたものといえます。

当計画では、以上の点をふまえて、亀岡の歴史的・文化的特徴を「亀岡の歴史文化」として、下記のとおり４点に集約して把握することとします。

１　丹波国の中心地としての歴史文化

亀岡の丹波国の政治経済、文化の中心地として発展してきた歴史に関する歴史文化です。

飛鳥時代以前から中央との結びつきを強め、古代には丹波国府や国分寺、丹波国一宮（出雲大神宮）が置かれ、中世には室町将軍足利氏や管領細川氏らから寄進を受けた寺社が整備され、丹波国守護代の拠点が置かれました。また丹波国における仏教信仰の一つの拠点となり、仏教美術が栄えました。山陰道の要に置かれた丹波亀山藩は、領内の町や祭礼・教育を整備しました。

２　京都とのかかわりから生まれた歴史文化

亀岡の８世紀後半以後に京都とのかかわりによって形成されてきた歴史に焦点を当てた歴史文化です。

亀岡の歴史は、平安時代以来、都と丹波国や西国を結ぶ交通路が発達し、それを介した人・物の交流も活発となり、人的・物的資源を京都へ供給するとともに、京都からも多くの人が隠居・疎開してきた地域でもあります。

３　畿内文化の交流点としての歴史文化

亀岡は、南西を摂津国、東を山城国と京都・北西を奥丹波と接しているため、隣接する各地域の文化の影響を受け、それらが交錯することで独特の文化が形成されてきました。

建造物においては、摂津、丹波に拡がる「摂丹型民家」が広く分布し、南西部には摂津国に檀信徒を持つ寺社があり、摂津国の妙見山への参詣道があります。東部には京都でも火伏の神として祀られる愛宕山の信仰が広がり、南西部に拡がる妙見山信仰と混在しています。

また円山応挙や石田梅岩など亀岡から京都や各地域へ移り活躍した人物も多くいます。

４　地形や自然が育んだ歴史文化

亀岡には、地形や自然的・地理的条件に規定され育まれた歴史文化があります。

中世以来の荘域に位置する神社の神輿が集結する佐伯灯籠や、保津川を開削したと伝わる神様を祀る保津火祭り、豊作を願う出雲風流花踊りや犬甘野御田など古来から現在まで続く祭礼が多くあります。これらの文化を伝える歴史資料が各地域で保管されていることも重要です。また別院地域の山間部やアユモドキと共生してきた水田の景観も特徴です。

第２節　関連文化財群

本計画では、歴史文化の特徴に基づいて、１２の関連文化財群を設定し、保存・活用を図っていきます。

各歴史文化の特徴と関連文化財群の関係性、関連文化財群の構成要素を下表に示します。

※各構成要素の文化財指定登録種別の記号　凡例
国指定：◎　国登録：●　府指定：◆　府登録：◇　府決定：□　府暫定登録：＊　市指定：■　未指定：未

歴史文化の特徴	関連文化財群	構成要素
１　丹波国の中心地としての歴史文化	ア 丹波国の政治の中心地として	・千歳車塚古墳（◎史跡） ・保津車塚古墳（未・遺跡） ・千代川遺跡［丹波国府推定地］（未・遺跡） ・池尻遺跡［丹波国府推定地］（未・遺跡） ・丹波国分寺跡附八幡神社跡（◎史跡） ・丹波国分尼寺跡（未・遺跡） ・出雲大神宮（本殿・◎建造物／男神坐像・◎彫刻／社務所・●建造物） ・愛宕神社（本殿・◎建造物／狛犬・■＊彫刻／絵図等・未・歴史資料） ・まほろば・亀岡かわひがし～古代丹波の原風景～（未・京都府景観資産登録） ・篠村八幡宮（足利尊氏願文・◆古文書／足利尊氏旗揚げの地・■史跡） ・龍潭寺（特芳禅傑関係資料・◆歴史資料／庭園・◆名勝／開山堂・＊建造物／境内地・＊史跡） ・梅田神社本殿（◎建造物） ・神尾山城跡（未・遺跡） ・数掛山城跡（未・遺跡） ・笑路城跡（未・遺跡） ・八木城跡［神前北山城跡］（未・遺跡） ・桂林寺（梵鐘・■工芸品／馬頭観音像・＊彫刻／馬頭観音棟札・＊歴史資料） ・丹波亀山城跡（未・遺跡） ・丹波亀山城惣構跡（土塁・＊■史跡） ・光忠寺（仏涅槃図・＊絵画／歴代藩主墓所・■史跡） ・亀岡祭山鉾行事（行事・◇■無形民俗）
	イ 丹波国で生まれた信仰・祈り	・国分寺薬師如来坐像（◎彫刻） ・極楽寺［千歳町］十一面観音立像（◎彫刻） ・神蔵寺薬師如来坐像（◎彫刻） ・宝林寺薬師如来坐像・釈迦如来坐像・阿弥陀如来坐像（◎彫刻） ・千手寺法華経（◎書跡典籍） ・金輪寺［宮前町］（仏涅槃図・◎絵画／五重石塔・◎建造物／金剛力士像・◆彫刻／本堂・◆建造物／鰐口・◆工芸品／奉加帳・＊古文書） ・宗堅寺如意輪観音坐像（◆彫刻） ・無量寺菩薩立像（◆彫刻） ・願成寺薬師如来坐像（◆彫刻）

歴史文化の特徴	関連文化財群	構成要素
1 丹波国の中心地としての歴史文化	イ 丹波国で生まれた信仰・祈り	・甘露寺十一面観音坐像（◆彫刻） ・極楽寺［河原林町］仏涅槃図（◆絵画） ・穴太寺（仏涅槃像・■彫刻／観音縁起絵巻・◆絵画／本堂・◆建造物／多宝塔・◆建造物／庭園・◆名勝／未・古文書／日本遺産） ・如意寺等大般若経保存会（大般若経・＊歴史資料／十六善神像・＊絵画） ・鍬山神社（本殿・◇建造物／八幡宮・◇建造物／未・古文書）
	ウ 丹波国独自の教育	・遷訓堂扁額（未・歴史資料） ・亀山藩校引継資料（未・歴史資料） ・石田梅岩関係資料（未・歴史資料） ・石田梅岩生家［石門心学発祥の地］（未・遺跡） ・中川小十郎生家跡（未・遺跡） ・中川小十郎関連遺跡（未・遺跡） ・北村龍象私塾跡（未・遺跡） ・明治五年開校の各学校跡（未・遺跡）
2 京都との関わりから生まれた歴史文化	エ 京と丹波国を結ぶ水運	・保津川下り ・請田神社（本殿・＊建造物／神像・＊彫刻） ・松尾神社［旭町］（境内地・□環境保全地区） ・保津・篠町山本の文化的景観（未・文化的景観） ・保津川下り操船技術（未・無形民俗） ・保津川船着き場の宇津根［丹波亀山藩運上所］（未・遺跡） ・内膳堤（未・遺跡） ・亀岡の船大工道具及び部材（＊有形民俗） ・河原林町の文化的景観（未・文化的景観）
	オ 京と丹波国・西国諸国を結ぶみち	・山陰道［丹波～京都往来ルート］（未・歴史の道） ・保津川（未・歴史の道） ・京都鉄道遺構（未・建造物） ・王子橋（未［日本土木遺産］・建造物） ・楽々荘［旧田中源太郎邸］（玄関・洋館・日本館●建造物／庭園・◇名勝） ・篠山街道（未・歴史の道） ・摂丹街道（未・歴史の道）
	カ 亀岡から京へ 京を支える物資等の供給地として	・篠窯跡（未・遺跡） ・篠窯跡出土の緑釉陶器（＊考古資料） ・丹波産の青砥（未・保存技術） ・砥石の採掘～製作の技術（未・保存技術） ・上村荘の景観（未・文化的景観） ・亀岡産の京野菜［聖護院かぶ、聖護院大根、賀茂なす、丹波大納言小豆、旭メロン］を使った食文化（未・無形民俗）
	キ 京から亀岡へ「京の奥座敷」として	・金輪寺［宮前町］（涅槃図・◎絵画／五重石塔・◎建造物／金剛力士像・◆彫刻／本堂・◆建造物／鰐口・◆工芸品／奉加帳・＊古文書） ・法常寺（紙本墨書後水尾天皇宸翰一絲和尚山居詩並御次韻和歌・◎歴史資料／一絲文守他歴代関係資料・◆歴史資料／庭園・◆名勝／法常寺のコウヤマキ・■名勝／境内地・□環境保全地区） ・湯の花温泉 ・菫青石仮像［桜石］（◎天然記念物） ・縁故疎開等関係資料（未・歴史資料） ・軍事郵便等関係資料（未・歴史資料）

歴史文化の特徴	関連文化財群	構成要素
3 畿内文化の交流点としての歴史文化	ク 摂丹型民家とその影響下で成立した町家群	・遠山家住宅（◎建造物） ・廣瀬家住宅（●建造物） ・篠山街道沿いの歴史的景観（未・文化的景観） ・丹波亀山城下にみられる歴史的建造物群（未・伝統的建造物群）
	ケ 北摂に隣接する地域の暮らしと歴史	・摂丹街道（未・歴史の道） ・妙見街道（未・歴史の道） ・鎌倉神社（本殿・◇建造物／境内地・□環境保全地区） ・犬甘野の御田（◇無形民俗） ・常泉寺蔵犬甘野板碑（■建造物） ・延福寺［本梅町］（十三重石塔・◎建造物／本堂・＊建造物／庭園・＊名勝） ・上村荘の景観（未・文化的景観） ・能勢電鉄線路跡（未・建造物）
	コ 亀岡から羽ばたいていった先人たち	・金剛寺山門（未・建造物） ・円山応挙筆金剛寺蔵群仙図（◎絵画） ・円山応挙筆金剛寺蔵［東京国立博物館寄託］波濤図・山水図（◎絵画） ・円山応挙・応瑞筆板絵著色繋馬図（◆絵画） ・小幡神社（本殿・◇建造物／境内地・□環境保全地区） ・土岐済美筆山水図等（未・絵画） ・如意寺（大般若経・＊歴史資料／十六善神像・＊絵画） ・石田梅岩生家（未・建造物） ・中川小十郎生家跡・養家跡（未・建造物） ・廣瀬桑田関係資料（未・絵画） ・上田正昭蔵書（未・歴史資料）
	サ 巡礼道や信仰を介した他地域との文化交流圏	・愛宕講関係資料（未・有形民俗） ・愛宕神社（本殿・◎建造物／狛犬・■＊彫刻／絵図等・未・歴史資料） ・穴太寺（仏涅槃像・■彫刻／観音縁起絵巻・◆絵画／本堂・◆建造物／多宝塔・◆建造物／庭園・◆名勝／未・古文書／日本遺産） ・穴太寺［西国三十三所観音巡礼　札所］（未・日本遺産） ・六地蔵まいり（未・無形民俗） ・七福神めぐり（未・無形民俗） ・石棚付石室［鹿谷古墳群、拝田古墳群、小金岐古墳群］（未・遺跡）
4 地形や自然が育んだ歴史文化	シ 農村の暮らしが育んだ文化・景観	・佐伯灯籠（◎無形民俗） ・大井神社の立花行事（◆無形民俗） ・西山神社本殿（◆建造物） ・松尾神社本殿（◇建造物） ・保津八幡宮本殿（◆建造物） ・請田神社頓宮（◆建造物） ・保津八幡宮火祭り（未・無形民俗） ・宮垣神社本殿（◆建造物） ・犬甘野の御田（◇無形民俗） ・出雲風流花踊（◇無形民俗） ・土ケ畑サンヤレ（■無形民俗） ・亀岡の寒天製造用具（●有形民俗） ・アユモドキ（◎天然記念物） ・オオサンショウウオ（◎特別天然記念物） ・小川治兵衛［植治］作庭の庭園 ・樂慶入作の陶器 ・各地区区有文書（未・古文書）と文庫（未・建造物） ・別院地域山間部の景観（未・文化的景観）

ア　丹波国の政治の中心地として

概要

古墳時代後期の亀岡では、丹波地域において大型に属する千歳車塚古墳や保津車塚古墳が築かれ、７世紀には桑寺廃寺や観音芝廃寺といった古代寺院が建立されました。

こうした歴史的背景のもと、奈良時代には亀岡に丹波国衙が建設されました。国衙は、律令制のもとで五畿七道の各国におかれた政治の中心地であり、現在でいう都道府県庁にあたります。

国衙の近くには国分寺や国分尼寺が整備され、出雲神社が丹波国一の宮として定められるなど、亀岡盆地一帯は丹波国における政治や文化の一大中心地［国府］となりました。

平安末期には、国府は屋賀（南丹市）あたりに移り、室町時代には、神前北山城（八木城）に丹波国守護所が置かれ、亀岡盆地は中世以後も丹波国の政治の中心地であり続けました。足利尊氏が鎌倉幕府を倒すため、この亀岡の篠村八幡宮で挙兵したのは、亀岡が丹波国の政治的中心地であったことと無関係ではありません。

室町時代には、室町幕府管領で丹波国守護でもあった細川京兆家が臨済宗を保護したこともあって、亀岡にも多くの禅宗寺院が再興されました。薭田野町にある龍潭寺や瑞巌寺はその代表で、龍潭寺には、その再興時の開基である細川氏被官松井宗信（雲江）の肖像画とともに、細川政元の制札や代々の守護代による寺領安堵状等が伝えられています。

主な構成要素



1　丹波亀山城跡

明智光秀が天正５年（１５７７）に築城した平山城。豊臣政権以降も引き継がれ、江戸時代には丹波亀山藩主が在城しました。天守台の一部は天下普請のようすを留めます。



2　亀岡祭

室町時代の鍬山神社の祭礼を起源とし、江戸時代後期に形原松平氏が再興して現在の形が整えられました。京都府登録無形民俗文化財。



3　出雲大神宮

平安時代より丹波国一宮となり、以後武家や公家より崇敬を集めました。本殿は南北朝時代の建造で重要文化財。本殿に祀られる神像も重要文化財。

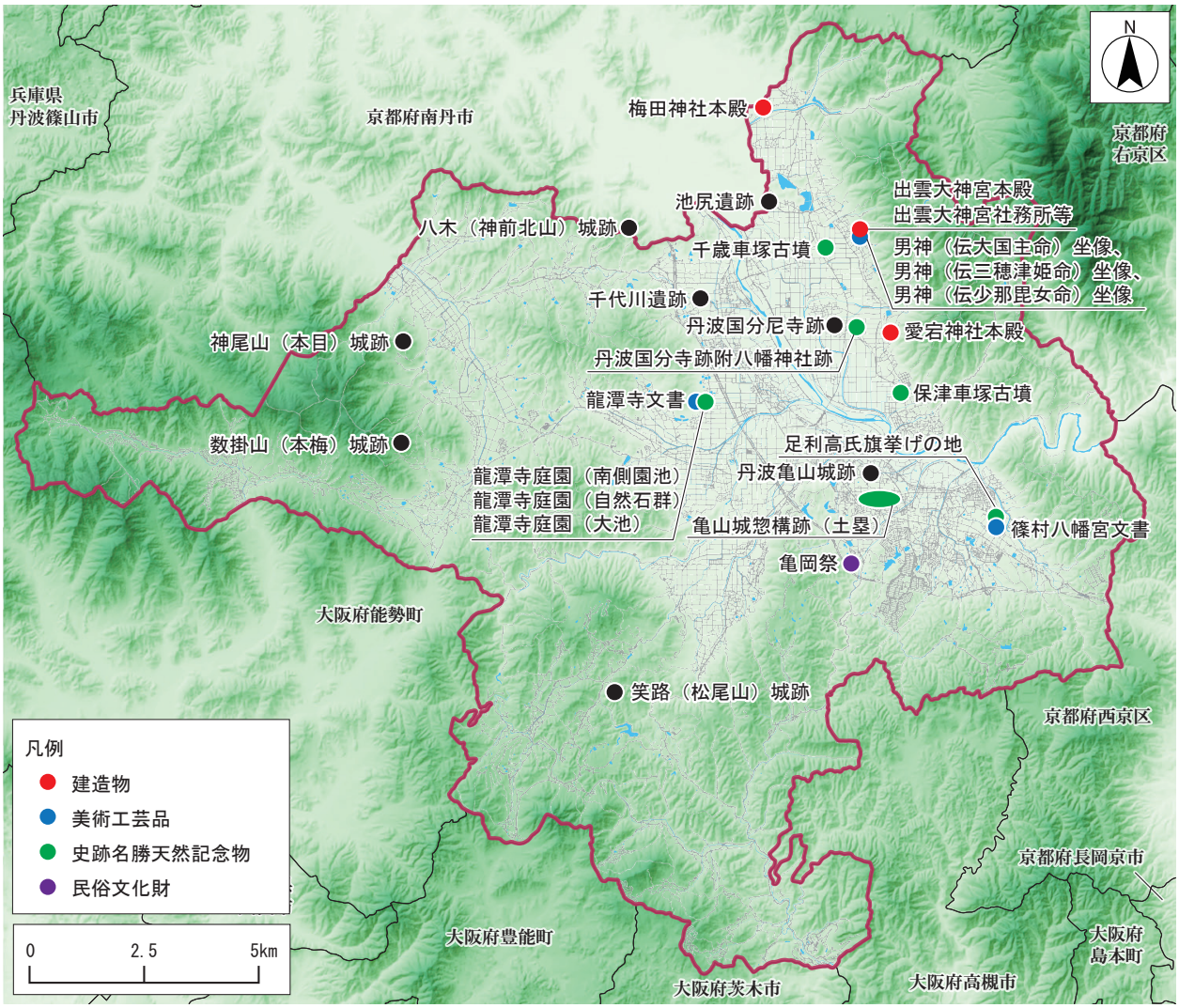


図１６　アの主な構成要素の分布図



4　愛宕神社

愛宕山山頂に位置する愛宕神社より先に創建された神社で、「元愛宕」ともいわれます。本殿は、鎌倉時代後期の建造で重要文化財。狛犬は市指定文化財。



5　丹波国分寺跡附八幡神社跡

奈良時代、聖武天皇の勅願による国分寺のひとつで、８世紀半ばの創建と考えられています。国指定史跡。現存の山門・本堂・鐘楼は江戸時代のもので市指定文化財。



6　千歳車塚古墳

６世紀前半に築造とされる前方後円墳。当時南丹波地域で最大規模の古墳で、当地域を支配していた倭彦王を葬ると伝えられます。国指定史跡。

イ　丹波国で生まれた信仰・祈り

概要

聖武天皇の詔をうけて、丹波国では亀岡に国分寺・国分尼寺が創建されますが、国分寺等の整備を通じて、中央の仏教文化の影響が当地にも及び、丹波国における仏教信仰の拠点のひとつとなっていきました。

国分寺に伝わる薬師如来坐像は、平安後期作の優品であり、千歳町極楽寺に伝わる十一面観音立像は、もともと出雲神社の神宮寺にあったと伝わり、国分寺・丹波一の宮の出雲神社を核として、仏教文化が栄えたことを示しています。

曽我部町の穴太寺は、西国三十三所の札所として有名ですが、その起源は鎌倉時代以前までさかのぼり、『今昔物語集』では「身代わり観音」が登場し、穴太寺には、室町時代作の穴太寺観音縁起と、江戸時代前期作の穴太寺観音縁起絵巻が伝わります。

また、亀岡には金輪寺（宮前町）旧蔵と伝え、現在は高山寺（京都市）等に分蔵される薬師三尊像をはじめ、無量寺（曽我部町）の菩薩立像、極楽寺（千歳町）の十一面観音立像など、古代に遡る本格的な作域の像が伝えられています。

さらに、甘露寺（東別院町）の十一面観音坐像や極楽寺（西別院町）の薬師如来立像などの存在からは、１１世紀初頭までに山間部を含めた市内各所に寺院が営まれるようになったことがうかがえます。

中世に入ると、守護細川家の保護を受けた丹波国では、臨済宗妙心寺派が教線を広げ、龍潭寺を初めとする多くの禅宗寺院が再興されました。

江戸時代、１８世紀半ばに丹波亀山藩主となった形原松平氏は、室町時代に起源をもつ亀岡祭を再興し、領内の仏教美術を修理・保護するなど文化財の保存を推進しました。

主な構成要素



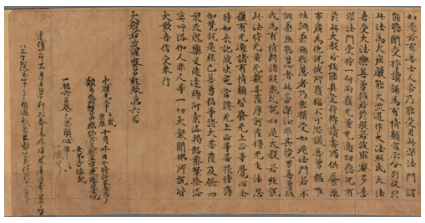
1　国分寺薬師如来坐像

国分寺（千歳町）に伝わる仏像で、１１世紀後半（平安時代後期）の制作といわれます。現在に続く国分寺は、１８世紀に本像を本尊として再興されました。重要文化財。



2　甘露寺十一面観音坐像

甘露寺（東別院町）に伝わる仏像です。９世紀後半（平安時代前期）の制作といわれ、亀岡市内最古級の仏像です。京都府指定文化財。



3　如意寺等大般若経保存会所蔵大般若経

もともと桑田神社（篠町山本）の神宮寺に所蔵されていた大般若経で、現在は保存会が管理。平安時代書写のものも含む市内最古のものです。亀岡市指定文化財・京都府暫定登録文化財。

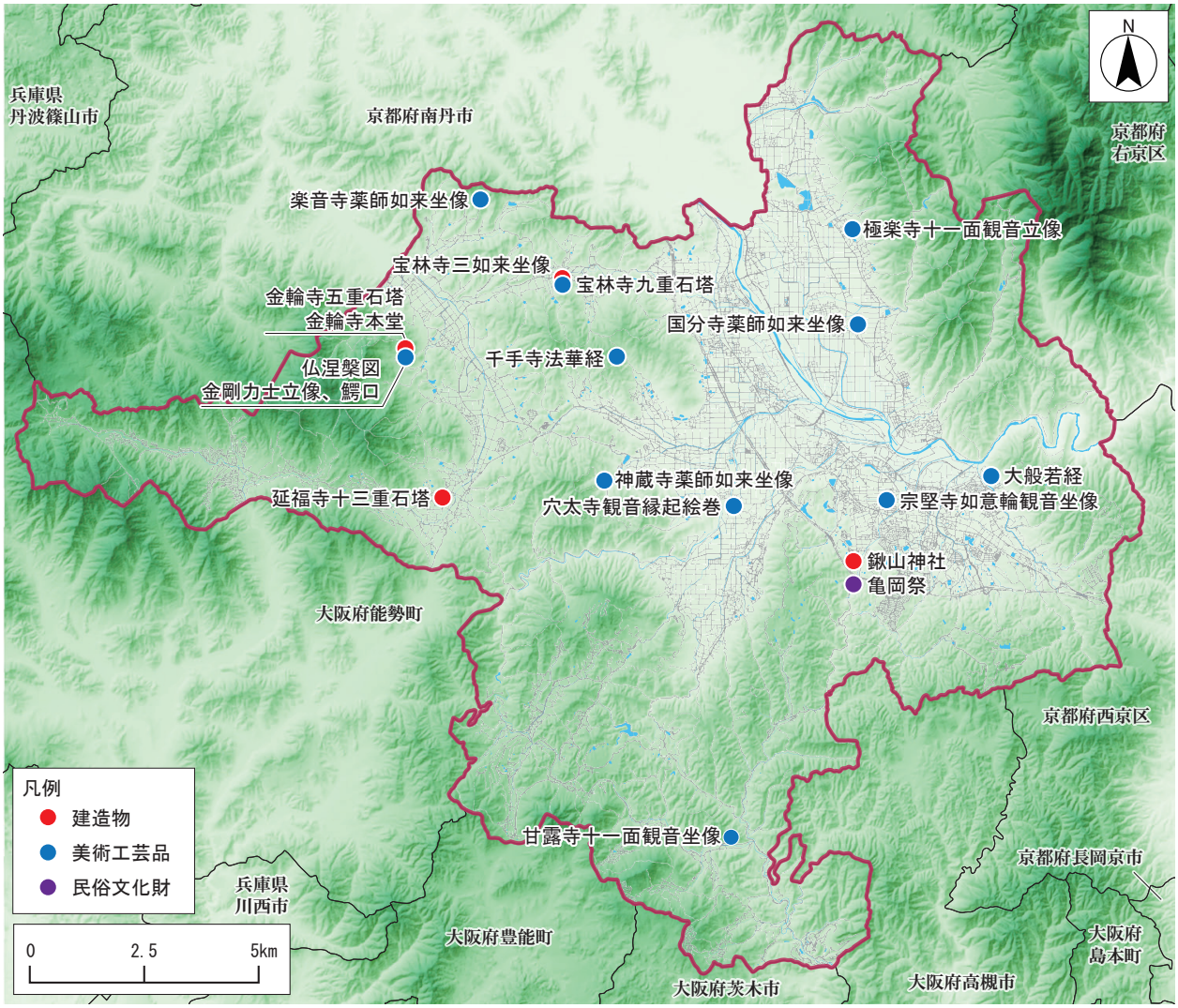


図１７　イの主な構成要素の分布図



4　穴太寺観音縁起絵巻

穴太寺（曽我部町）に伝わる観音縁起をもとに、江戸時代前期に京狩野の狩野永納が絵を描き、盛胤法親王が詞書を記した絵巻物。京都府指定文化財。



5　宗堅寺如意輪観音坐像

宗堅寺（東竪町）に伝わる仏像です。像内銘から鎌倉時代後期に仏師賢清によって制作されたことがわかっています。京都府指定文化財。



6　神蔵寺薬師如来坐像

神蔵寺（薤田野町）に伝わる仏像です。秘仏であり普段は非公開。寺伝では明智光秀進攻の際に本尊だけ菰にくるんで避難したという。重要文化財。

ウ　丹波国独自の教育

概要

江戸時代、形原松平氏が亀山藩主として入封すると、形原松平氏は学制の整備に努めました。

亀山藩主形原松平家の初代信岑は、多くの儒学者を藩校に招いて師としました。例えば、皆川淇園を招いて藩政の顧問とし、また儒学者の松崎蘭谷を江戸から招き、神武天皇以来後奈良天皇までの歴代天皇の編年史を『史徴』として編纂しました。

また、藩士の子弟教育の場として「邁訓堂」をおき、広徳館、鉄門館などを新設しました。「邁訓堂」の扁額は現在も市立亀岡小学校に懸けられ、その精神は亀岡市の教育現場に受け継がれています。

一方、亀岡は、歴史的に重要な学問・教育者を育てた地でもあります。

南側に広がる別院地域の東掛村は、石門心学の祖である石田梅岩の出生地です。梅岩生前において心学は京都とその周辺で普及したにすぎませんでしたが、石田梅岩の門弟である手島堵庵はたびたび亀岡を訪れ、亀山城下の西光寺において『論語』の講義を行い、中沢道二も亀山藩主松平信道に心学の講釈を行うなど、亀山城下をはじめ、心学は江戸時代に亀岡市域において広く普及していきました。

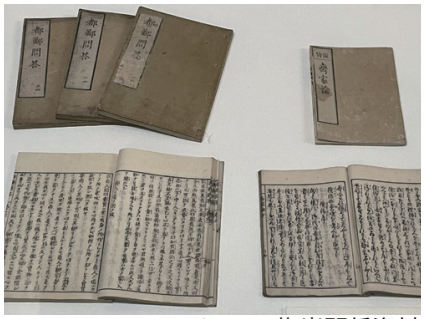
幕末以来、私塾も数多く置かれ、馬路村域の典学舎、この跡地に北村龍象が開いた「馬路の塾」が有名ですが、この「馬路の塾」では、馬路村に生まれ後に立命館の基礎を築いた中川小十郎が学びました。

主な構成要素



1　邁訓堂扁額

丹波亀山藩主形原松平氏が開いた藩校「邁訓堂」にもともとかけられていた扁額です。現在、亀岡市立亀岡小学校の玄関にかけられています。



2　石田梅岩関係資料

石田梅岩は、１８世紀前半に石門心学の元となる学問を開いた儒学者。別院の東掛村出身で、次男だったために京都の商家に丁稚奉公に出され、そこで心学を見出しました。



3　石田梅岩生家

石田梅岩の生家には現在も梅岩のご子孫がお住まいです（※非公開）。石田家は東掛村の有力百姓で、春現寺の総代もつとめていました。付近には梅岩記念館や梅岩の墓もあります。

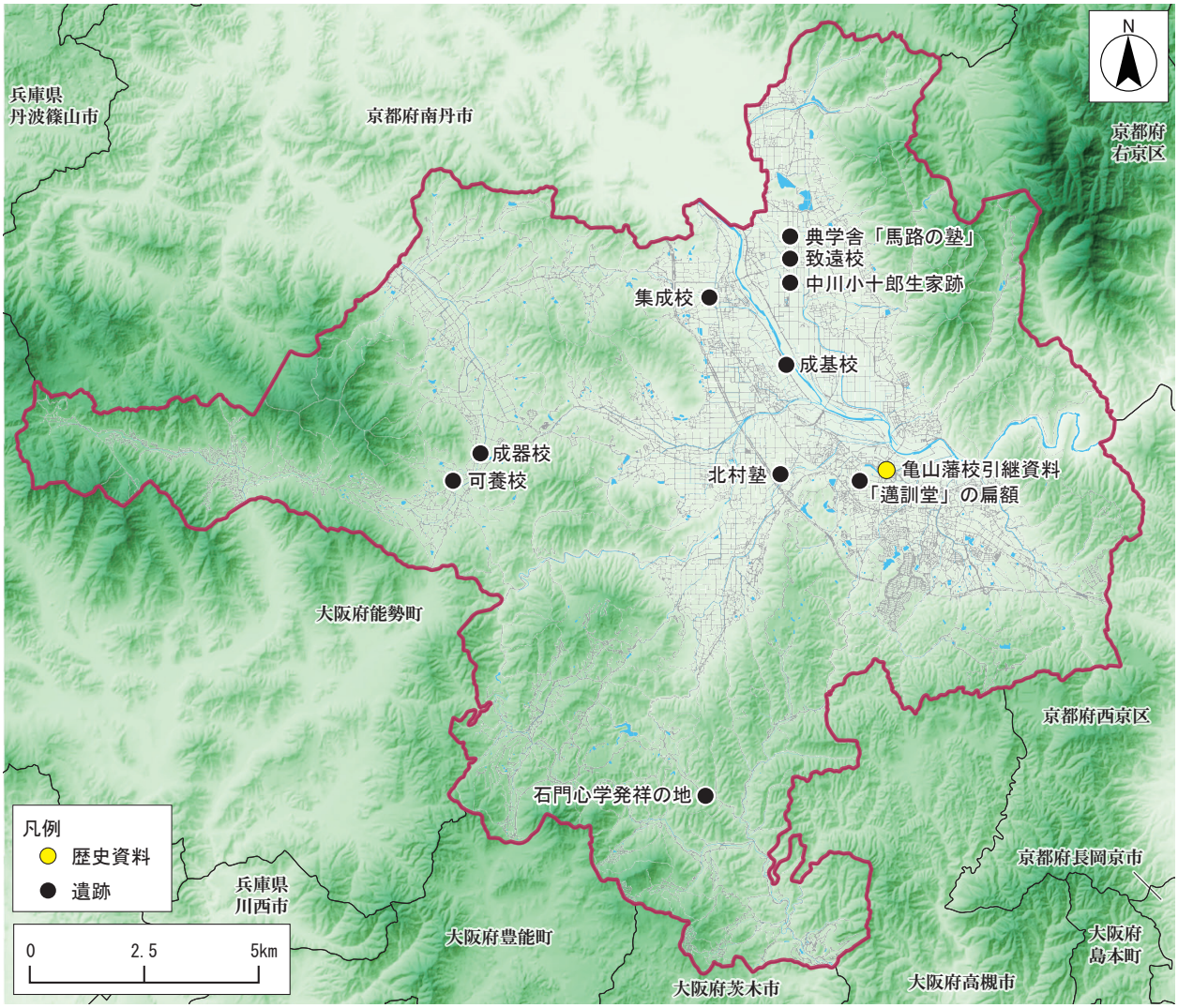


図１８　ウの主な構成要素の分布図



４　北村龍象私塾跡

北村龍象は明治～大正時代に亀岡市域で教育を興した人物です。龍象の開いた学校は複数あり、その跡地には弟子によって石碑が建てられています。



５　中川小十郎生家跡

中川小十郎は、「馬路の塾」で中川謙二郎に学び、後に立命館大学の前身である「立命館」を開塾した人物です。小十郎の生家の門や土蔵が現在も残ります。



６　中川小十郎関連遺跡

中川小十郎の叔父で、小十郎の師でもある中川謙二郎の顕彰碑。石碑の前には、中川小十郎が昭和３年（１９２８）にこの碑を建てたことを記す石碑が建ちます。

エ　京と丹波国を結ぶ水運

概要

大堰川の水運の歴史は古く、平安時代以前に遡ります。

当時は、丸太を組み合わせた筏にして数日かけて運ばれた木材が、建築資材となり、平安京造営を支えたといわれています。

この保津川の開削に関わったといわれるのが、渡来系氏族の秦氏です。秦氏は、高い技術力による土地開発を背景に富を蓄積した一族であり、その財力によって地方豪族として力をつけていったといわれています。

秦氏の技術力を象徴するのが嵐山にある大堰川の堰で、治水や灌漑のために設置されたといわれます。大堰川上流の亀岡市域との関係も深く、秦氏の氏神である松尾大社（京都市西京区）と同名の松尾神社が、市内の旭町美濃田などにあります。また市内在住の川勝氏には、秦川勝を祖と伝える家もあり、大堰川下流域とのつながりが意識されていたことがうかがえます。

江戸時代には、「川大名」と呼ばれた京都の豪商・角倉了以が、息子の素庵とともに保津渓谷の開削に着手しました。急峻な渓谷の工事は困難を極めましたが、約６カ月の工事を経て、水路が開かれました。米、麦、薪、炭などの特産品の大量運搬が可能となり、丹波と京都を結ぶ動脈として発展しました。

時代の変遷とともに輸送方法が陸路へと移った後は、水路は観光船として活用され、四季折々の渓谷美を感じる「保津川下り」として、世界から注目を集めることとなりました。

保津川下りの船頭のくらしを感じられる景観が、現在も亀岡市の篠町山本や保津町に残り、船頭が舟運の無事を祈願して金毘羅神社に参詣する行事は今も続けられています。

主な構成要素



1　保津川下り

保津川では、中世以前から丹波国の材木を流す筏流しが行われていましたが、江戸時代以降角倉了以・素庵によって流路が開削されて船の往来が可能になりました。



2　請田神社本殿

保津川が峡谷に入る狭窄部左岸に位置する神社。神代に、大国主命が保津川を開鑿したとき、鍬を「うけた」ことから請田神社と呼ばれることになったと伝わります。



3　松尾神社（旭町）

旭町に位置する松尾神社本殿。檜皮葺の一間社流造で、全体に装飾も少なく細部に古式の様式が目立ちます。境内地は京都府決定環境保全地区。

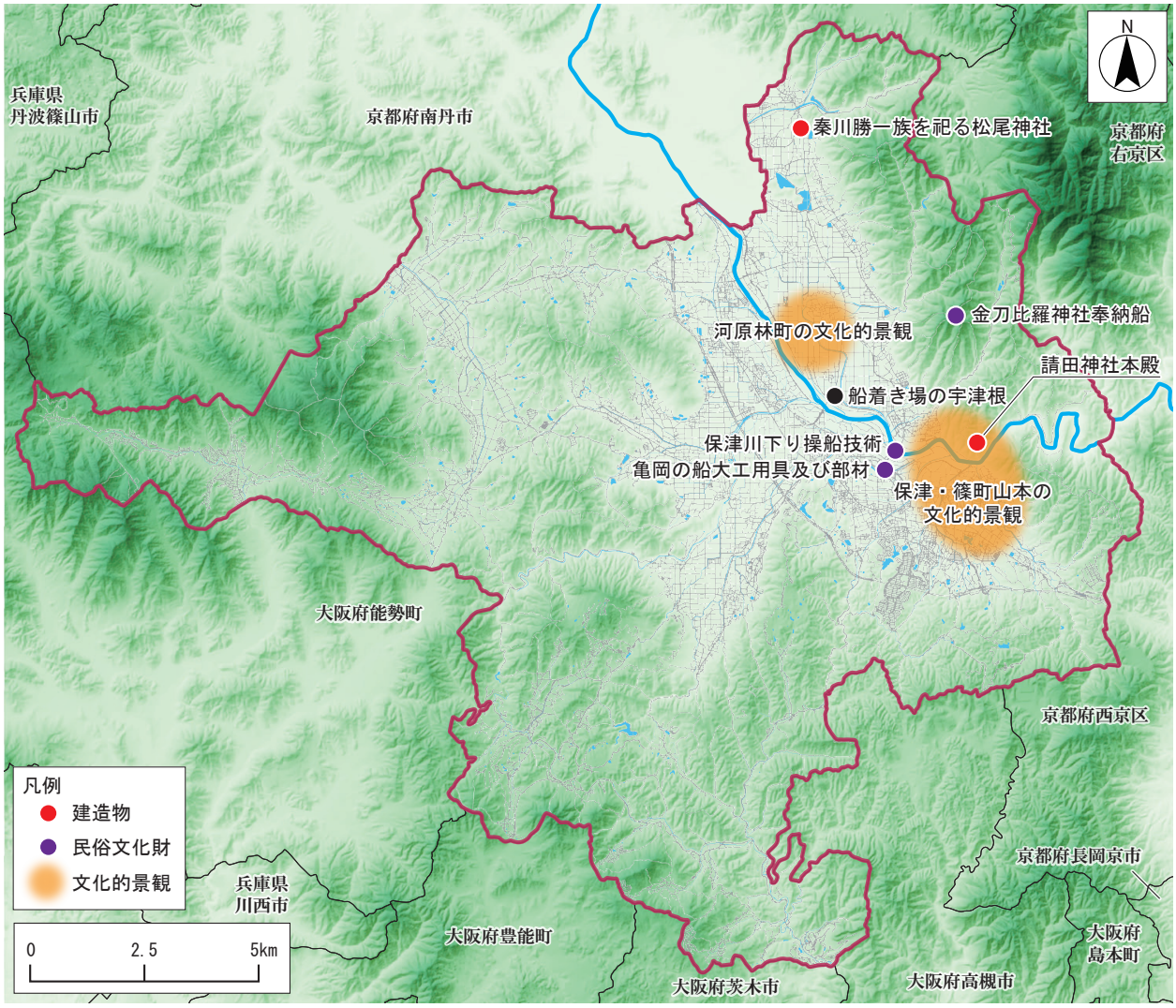


図１９　エの主な構成要素の分布図



４　内膳堤

江戸時代、初代亀山藩主岡部長盛が保津川の氾濫を抑えるために整備したと伝わる堤です。長盛の官途名にちなんで「内膳堤」と呼ばれます。



５　保津・篠町山本の文化的景観

保津川下りの船頭が暮らしていた篠町山本や保津地域には現在も江戸時代以来の景観が残っています。写真は山本地域の庄屋をつとめた宇野家住宅。



６　河原林町の文化的景観

河原尻・勝林島（河原林町）は、保津川左岸の低地に位置するため中世以来洪水の被害を被ってきました。そのため、浸水対策として石垣や生垣が築かれました。

オ　京と丹波国・西国諸国を結ぶみち

概要

亀岡の地は、古くから陸上交通の要衝であり、古代には保津川の東、川東地域に古代山陰道が通っており、国分寺と国分尼寺の間を通って北西へ抜ける道がありました。この道は、現在でも国分寺周辺で確認することができます。

戦国時代に明智光秀が亀山に城郭を築いたのも、この地が、大堰川西岸沿いの道を進み丹後へ抜ける丹後道、奥丹波（丹波篠山市方面）へ続く篠山街道（近世山陰道）、老の坂を抜けて京と亀山の地を結ぶ山陰道、南西に進み摂津国へ通じる摂丹街道が交差する場所であったからと考えられています。

亀山城下を北西へ抜け、篠山へ抜ける近世山陰道は、城下町では旅籠町があり、城下を抜けても余部や吉川、薙田野などに宿が設けられ、街道として発達しました。吉川町～薙田野町に続く道には、現在でも江戸時代以来の面影を残す町並みがみられます。また、京都へ抜ける道も複数あり、老の坂を超える山陰道、篠町山本から尾根へ上がる唐櫃越（からとごえ）、保津町から愛宕山参詣ルートを通って京都へ抜けていく明智越（あけちごえ）などが知られています。

篠町王子には明治１７年（１８８４）建造で土木遺産にも選ばれている王子橋が残っており、陸上交通の発展を今に伝えています。

近代には鉄道が通り、水運が担っていた物流の主役の座を奪うことになりますが、その先がけが京都鉄道であり、京都鉄道を創業した田中源太郎の屋敷が現在「楽々荘」として国の登録文化財に登録されて公開されています。また、摂津と南丹地域を結ぶ能勢鉄道も延伸される予定でしたが、途中で断念されました。そのときの痕跡が現在も本梅町内に残されています。

主な構成要素



1　山陰道①

山陰道は、古代幹道として整備されて以来、特に山城国と丹波国の国境に位置する老の坂越えのルートは現在まで人々の交通路として使われ続けています。



2　山陰道②

老の坂は、戦国時代に明智光秀が本能寺の変で通ったことでも知られます。『信長公記』には「老ノ山」として登場し、ここを通ったことがわかります。



3　山陰道③（石道標）

老の坂峠の亀岡市と京都市の境には「従是東山城国」と記す石道標が現在も残ります。江戸時代に人々の往来が多かったことを示しています。

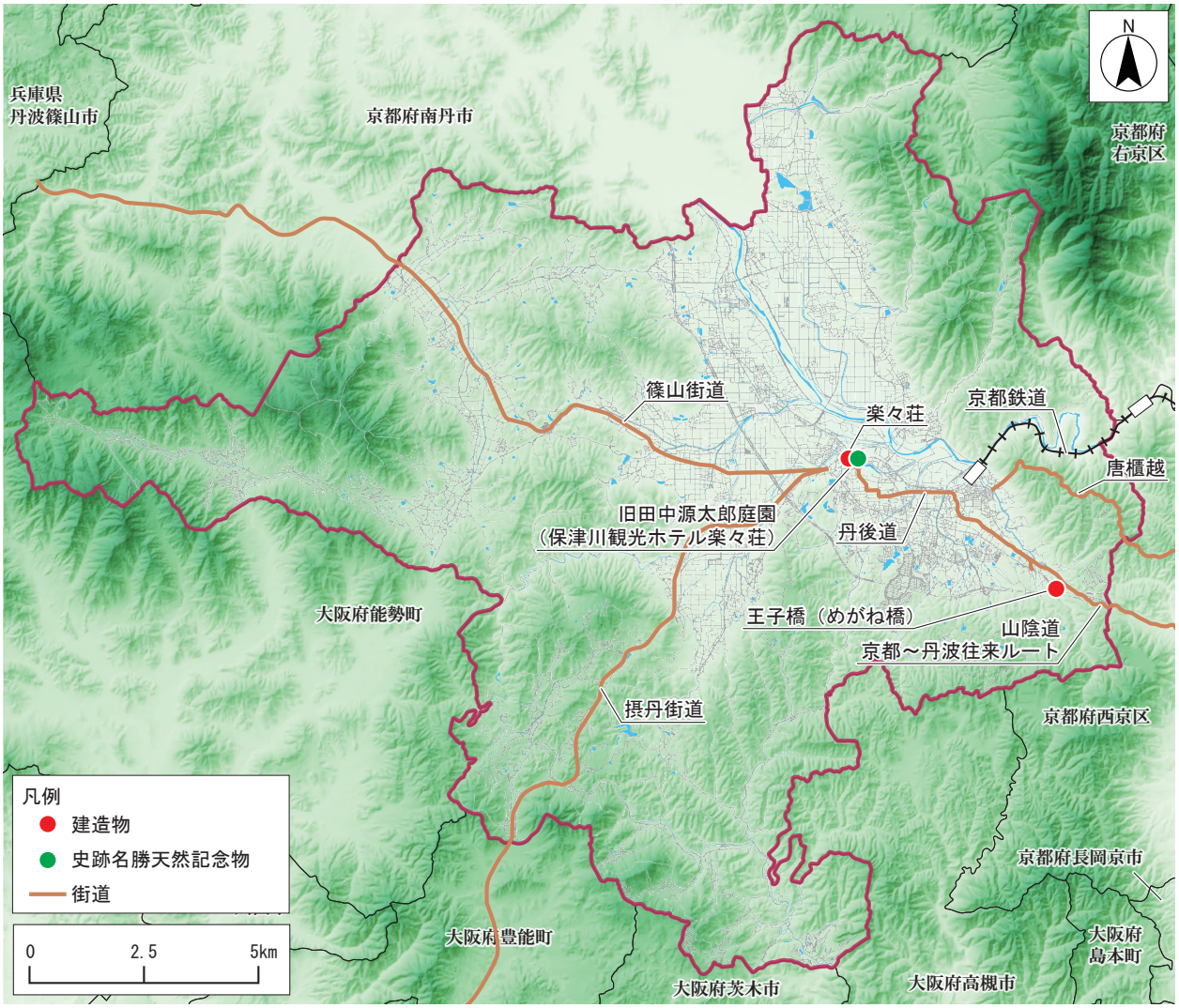


図２０　オの主な構成要素の分布図



4　山陰道（亀山城下）

江戸時代、丹波亀山城下の城下町が発展し、城下町造成時に山陰道は城下に組込まれました。

山陰道沿いには現在も江戸時代以来の町家が残ります。



5　京都鉄道遺構

明治時代以降、交通の主役は鉄道に移り変わりました。京都鉄道が通った京都―亀岡間の線路は現在も残り、「嵯峨野トロッコ列車」として使われています。



6　楽々荘

京都鉄道の創業者である田中源太郎の屋敷跡。旧本館や玄関、洋館は国登録文化財。小川治兵衛作になる庭園は京都府登録文化財。

カ　亀岡から京へ　京を支える物資等の供給地として

概要

亀岡は古来より陸上交通、水上交通が発達した地域でしたが、その背景には、丹波国および亀岡市域で木材や薪炭等の資源が豊富に採れたことが関係しています。

保津川は、亀岡よりさらに上流、世木（南丹市）などの山奥からの木材を切り出して筏に繋いで下流の京都へ運ぶ役割を果たしていましたが、船着き場は宇津根や山本にもあり、宇津根で篠山街道（近世山陰道）で運ばれてきた木材を積み替えて運んでいたと考えられます。

事実、現在の本梅町域は中世まで上村荘と呼ばれ、禁裏御料となっていましたが、この上村荘からは、薪炭が多く運び出されていたことが『御湯殿の上日記』などで確認することができます。

また、篠町の京都縦貫道篠 IC 付近に広がる篠窯業生産遺跡群（篠窯跡）では、奈良時代～平安時代末までの大量の土器や瓦の窯跡（窖窯・小型三角窯）が確認されており、ここから、平安京に向けて須恵器や緑釉陶器が生産され、出荷されていたと考えられています。

さらに、宮前町や馬路町の山から算出される良質な天然砥石は、京都の仏師の鑿の研磨材として重宝されてきました。

現代においても、亀岡は京都への消費材の供給地として役割を担っており、代表的なものが京野菜です。万願寺唐辛子、聖護院大根、丹波大納言小豆など、「おばんざい」として京の食卓を彩ってきた野菜の多くは、亀岡で生産されています。

古代から現代まで、亀岡は京を支える物資の供給地として位置づけられてきたといえます。

主な構成要素



1　上村荘の景観

上村荘（本梅町）は、中野･平松･井出などで構成される荘園で、中世には禁裏御料として天皇家に対して薪炭等を供給していました。



2　篠窯跡

現在の篠町東部一帯には篠窯業生産遺跡群（篠窯跡）が広がります。土器を焼成する穴窯と緑釉陶器を焼成する小型三角窯等が確認されています。



3　篠窯跡出土の緑釉陶器

篠窯跡で作られた土器や瓦は、当初は近隣寺院や国分寺へ供給されましたが、平安時代以降は京都へも供給され、貴族の配膳具として供されました。

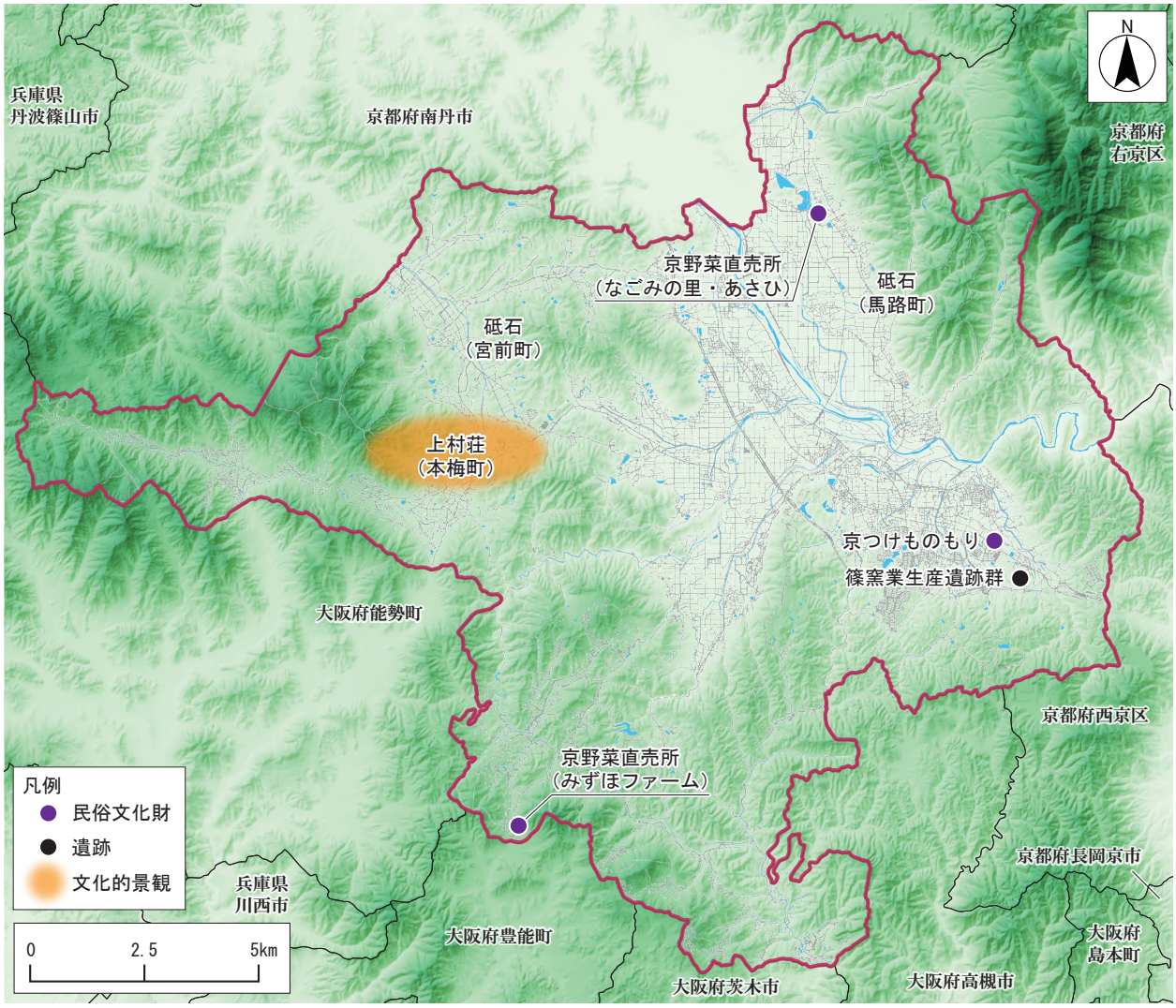


図２１　力の主な構成要素の分布図



4　丹波産の青砥

青砥は、丹波国の名産品として江戸時代から有名でした。丹波産出の青砥で研いだ刀は切れ味が良く、仏師の鑿などにも重宝されてきました。



5　砥石の採掘～製作の技術

砥石は丹波の名産品だったため、採掘権は村の財産として江戸時代以降大切に保持され、馬路町では明治期以降に財産区の権利として守られてきました。



6　亀岡産の京野菜を使った食文化

「おばんざい」として知られ、全国で流通する聖護院大根や万願寺唐辛子といった「京野菜」を使った行事食や郷土料理が亀岡市内には多く伝わっています。

キ　京から亀岡へ　「京の奥座敷」として

概要

亀岡は京都へ歴史的に多くの人・モノを供給してきましたが、いっぽうで、古来より京都の「奥座敷」として、僧の修行場、または武家や公家の遁世地として多くの人々を受け入れてきました。

宮前町にある金輪寺は、高山寺の開祖である明恵上人の弟子が開いた寺院であり、山上に位置する寺院として古来より多くの僧の帰依を受けてきました。寺内には、後嵯峨天皇らの扁額も掲げられており、鎌倉期～南北朝期にかけて天皇家からも帰依を受けてきました。

修行場としては、金輪寺と谷向かいに位置する楽音寺や、東別院町にある宝山権現（たからやまごんげん）も中世以前から密教の聖地であったといわれ、現在東別院町栢原の金輪寺に残る阿弥陀如来坐像や、同南掛の甘露寺に伝わる十一面観音坐像も、もともとは宝山の山上にあったと伝えられています。

近世には、岩倉家出身の僧一絲文守が、都の喧騒を逃れて千ケ畑（畑野町）に移住しますが、一絲に深く帰依していた後水尾上皇が旧殿を下賜して、これを「大梅山法常寺」と名付けて一絲を開山としたとされています。

その後、近代においては、戦時下においても戦争から逃れるため、縁故疎開として京都から移住してきた人々が多くありました。

そして現在、亀岡の三大観光名所である湯の花温泉は「京の奥座敷」として、京都からの観光客を迎え入れています。

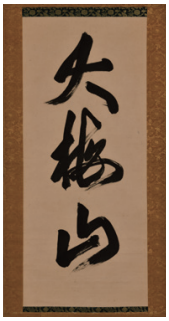
主な構成要素



1　金輪寺本堂

高山寺開山明恵の高弟が開いた寺院で、吽形が鎌倉期・阿形が室町期作とされる金剛力士像（京都府指定文化財）が安置され、仁王像があった山門跡石垣も残ります。





2　一絲文守他歴史関係資料（後水尾上皇像・後水尾上皇宸筆「大梅山」）

後水尾天皇は、一絲文守に深く帰依し、千ケ畑に隠居していた文守に対し、旧殿を寄進し、この寺を大梅山法常寺と名付けました。いっぽうで、穴太寺（曽我部町）に対し縁起絵巻の寄進するなど江戸時代前期の亀岡市域の文化の興隆に寄与しました。一絲文守関係資料一式は京都府指定文化財。

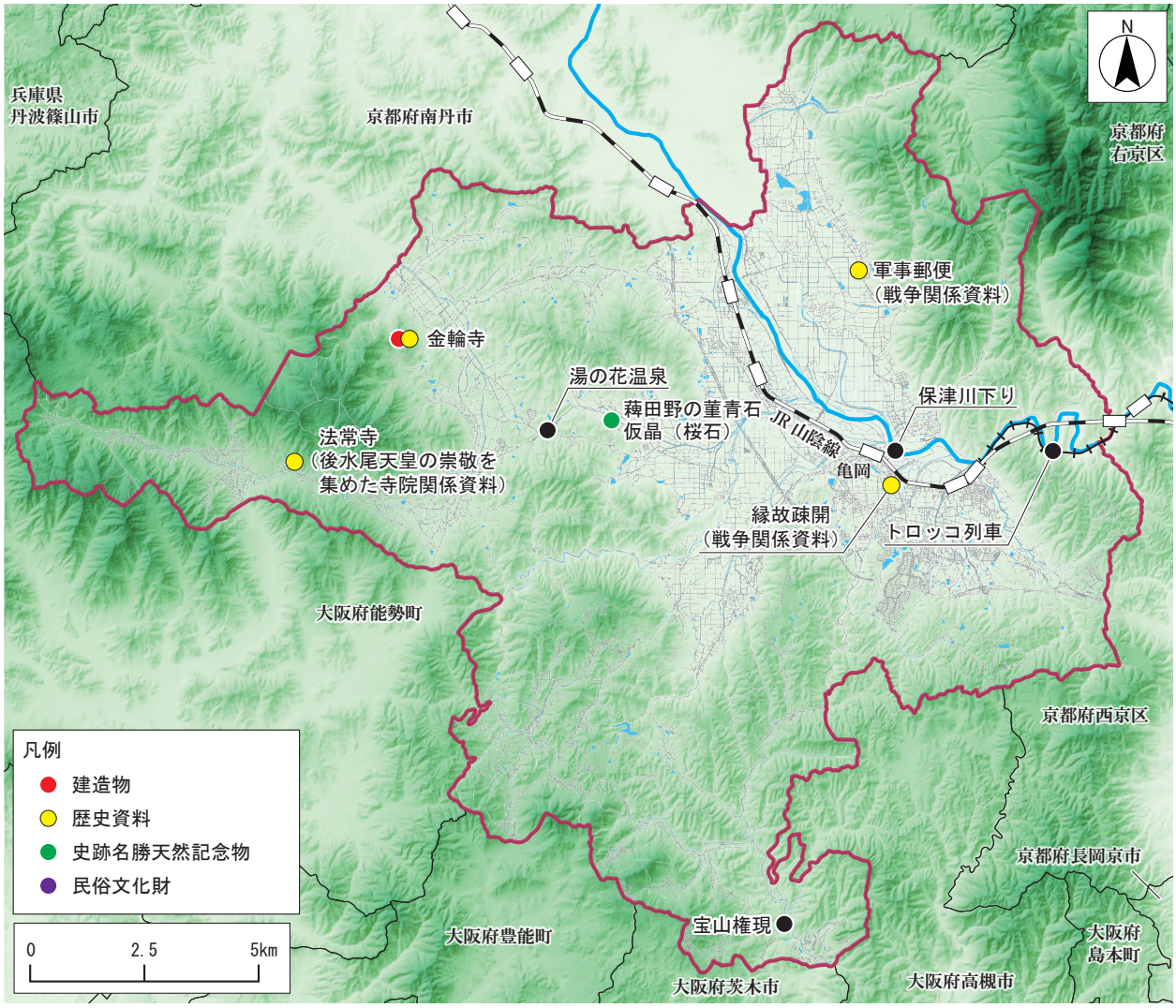


図２２　キの主な構成要素の分布図



3　紙本墨書後水尾天皇宸翰一絲和尚山居詩並御次韻和歌

千ケ畑に隠居していた一絲文守に対し、後水尾天皇が暮らしぶりを尋ねたところ１０首の漢詩が送られてきたため、これに感銘を受けた天皇がこの漢詩を引用して詠んだ和歌。



4　湯の花温泉（開業のころ）

湯の花温泉は、もともと蒔田野町猪ノ鼻という地に大槻嘉男元市長が開発した温泉地。

京都に隣接する「京の奥座敷」として、京都周辺で人気の観光宿です。



5　菫青石仮像［桜石］

菫青石の結晶が擬六方結晶をなし、柱状結晶の横断面が六枚の花びら状を呈することから、桜石と呼ばれ親しまれています。天然記念物で、京都府レッドデータブックにも記されています。

ク　摂丹型民家とその影響下で成立した町家群

概要

古くから亀岡は、隣接する摂津国と関わりが深く、摂津国と丹波国の文化が交わる地域であるといえます。

摂津国～丹波国、山城国西部にわたる広いエリアでは、いわゆる摂丹型民家が広く分布しており、亀岡にもこの特徴を持つ民家が多く所在しています。

亀岡を代表する民家である河原林町に位置する遠山家住宅（国指定重要文化財）は、東側に土間が通り、西側にザシキ・ダイドコロ・ナンドの並ぶ典型的な摂丹型民家の間取りを有しており、また西にザシキが突き出す「角屋造り」を備える民家です。

こうした「角屋造り」の民家は、並河地域や川東地域、旧亀山城下町など市内全域に広く分布しています。

また、旧亀山城下町には、現在平入民家と妻入民家が混在していますが、「摂丹型」妻入民家から妻入の茅葺町屋が派生し、その後に妻入瓦葺町屋、平入瓦葺町屋と移り変わり、「亀岡町屋」といわれる景観が形成されたと考えられています。

このように、亀岡には「摂丹型」民家が広く分布しており、歴史的なまちなみを生み出しています。

主な構成要素



1　遠山家住宅（長屋門）

南北朝期の領主中津川氏を祖とする遠山家は、河原尻村（河原林町）の庄屋役も務めていた家で、江戸時代中期１８世紀建造の屋敷は、重要文化財に指定されています。



2　遠山家住宅（主屋）

遠山家住宅は、長屋門・母屋・土蔵などから構成され、母屋は、正面左側のザシキが突き出る「角屋造り」を特徴としています。



3　篠山街道沿いの歴史的景観

亀岡市域から兵庫県丹波篠山市へ続く篠山街道は、明智光秀も丹波進攻で通ったとされる歴史由緒ある街道で、現在も江戸時代以来の屋敷が多く残っています。

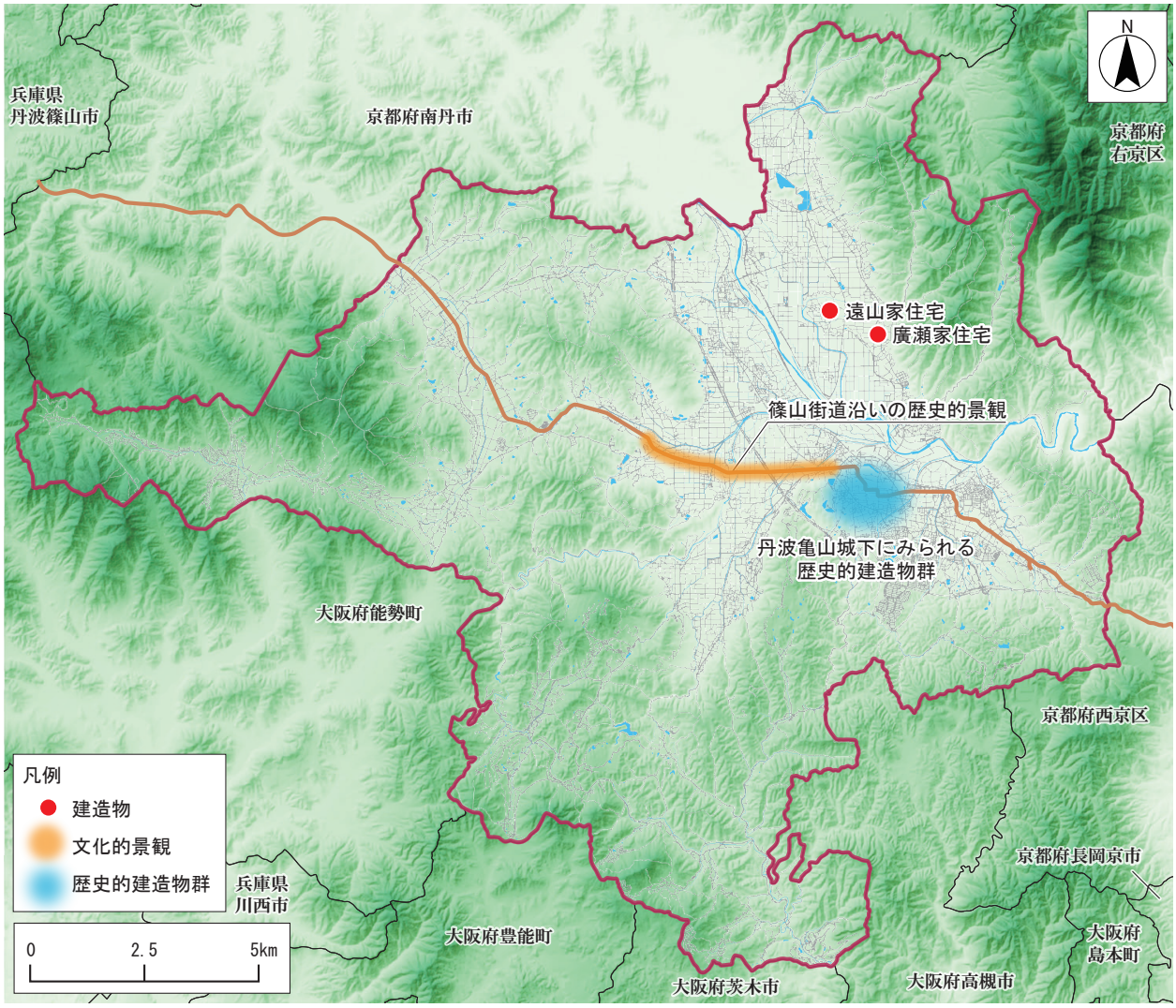


図２３　クの主な構成要素の分布図





４　丹波亀山城下にみられる歴史的建造物群

丹波亀山藩時代に整備された城下町を通る山陰道は、山陰道沿いの諸藩が参勤交代の際に通るなど江戸時代の幹線道路でした。

街道沿いに残る町家は、平入民家と妻入民家が混在し、独特の景観を生み出しています。



５　廣瀬家住宅（千歳町）

亀岡市域の山村部にも摂丹型民家が数多く残存しています。千歳町の廣瀬家は代表的なもので、１９世紀初期までに築造された屋敷が現在も使用されています。

ケ　北摂に隣接する地域の暮らしと歴史

概要

亀岡は、急峻な山々によって、亀岡盆地と本梅盆地、山間部の別院地域・畑野地域に分けられており、地形的には４つのエリアによって構成されているといえます。

亀岡盆地は、保津川流域に位置し、山陰道等の街道が通るため山城国、京都との結びつきや関係性が深いエリアです。いっぽう、本梅盆地、別院地域･畑野地域は、亀岡盆地と山々によって隔てられており、距離的な近さから、亀岡や京都ではなく、南西部に位置する摂津国と深い関係を有しています。

南西部の地域には、摂津国能勢妙見山の信仰圏が広がっており、妙見山への参詣道（摂丹街道）や道標も多く残り､本梅地域より妙見山へ向かう能勢電鉄線路跡も残存しています。また、本梅町や東西別院町の神社・仏閣の檀信徒は丹波～摂津国北部に広がっており、歴史的にも関係が深いといえます。現在でも婚姻関係を摂津地域と結ぶ家が少なくなく、北摂文化圏というべき独自の文化圏を形作ってきました。

主な構成要素



1　摂丹街道①

西別院町を通る摂丹街道。戦国時代より丹波国から摂津国へ抜ける道として利用されており、街道沿いには笑路城が残るほか、白髭神社等の神社仏閣も残ります。



2　摂丹街道②

本梅町を通る摂丹街道。本梅町域から柊峠を越えて大阪府能勢町域に続く街道で､旧街道沿いには「桶屋」や「鍛冶屋」といった屋号が残り、醤油屋は現在も操業しています。



3　妙見街道（道標）

摂丹街道は、江戸時代には妙見山（大阪府豊能町・能勢町）の参詣道としても利用され、亀岡市内には、妙見山への参詣道であることを示す道標が各地に点在しています。

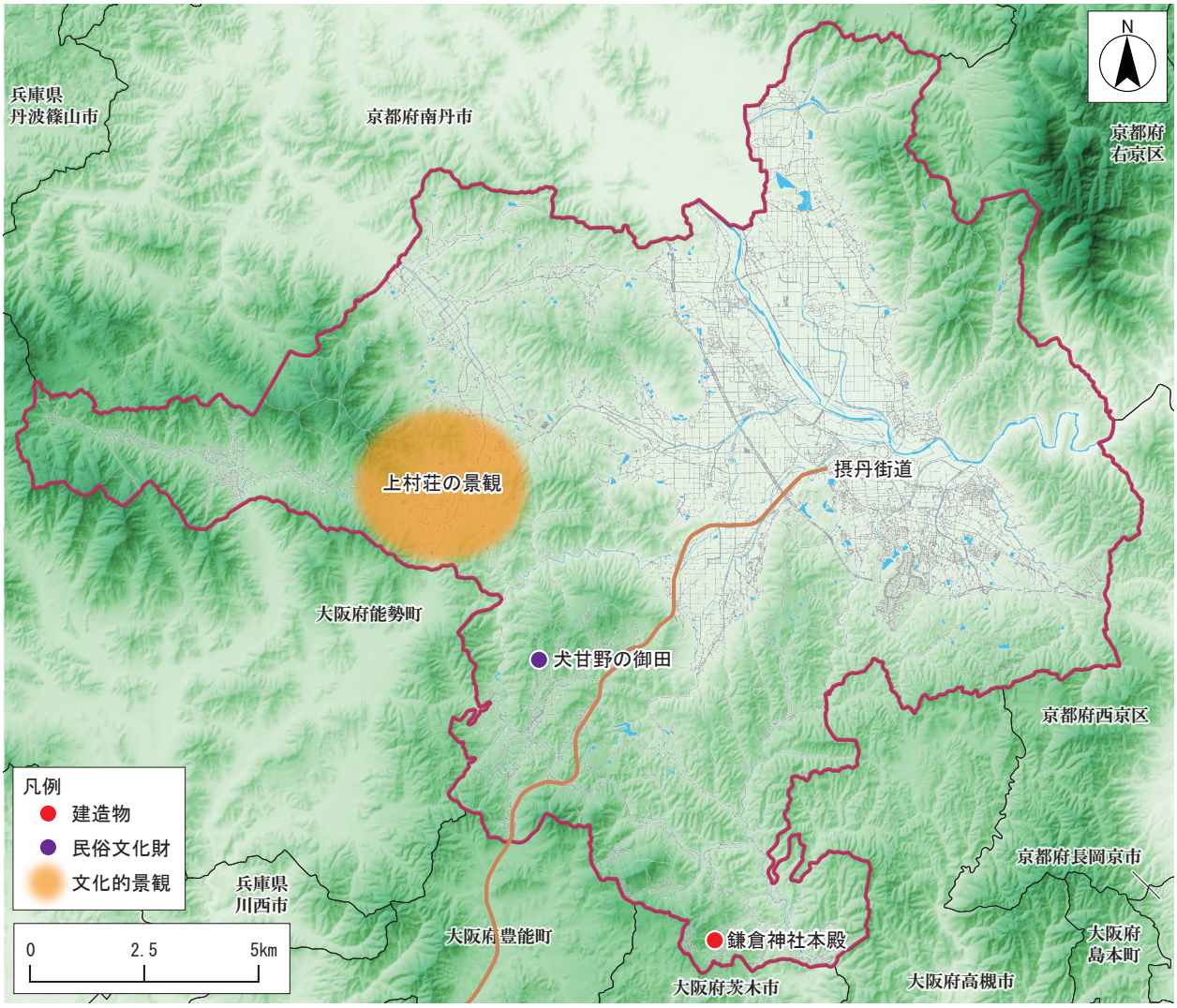


図２４　ケの主な構成要素の分布図



4　上村荘の景観

かつて上村荘、賀舎荘などの荘園が広がり、戦国期には数掛山城が戦場となった本梅地域には、中世の石造物や文書等の文化財が多く残り、歴史情緒を今に伝えています。



5　犬甘野の御田

松尾神社（西別院町）で毎年５月に実施される「犬甘野の御田」は、五穀豊穣を祈って牛耕のようすを再現する祭礼で、旧来の態様をとどめています。京都府登録無形民俗文化財。



6　鎌倉神社本殿

東別院町見立にある鎌倉神社の現存本殿は江戸時代後期のものですが（京都府登録文化財）、永正１２年（１５１５）の棟札が残り、戦国時代以前創建のことがわかります。

コ　亀岡から羽ばたいていった先人たち

概要

江戸時代を代表する画家円山応挙は、亀岡の穴太村（曽我部町）出身であり、十代半ばに穴太村の金剛寺に入り、その後京都の丁稚奉公に出されたといわれています。

応挙の作品を伝えるお寺として金剛寺が知られていますが、ここには、群仙図・波濤図・山水図の計５５幅の襖絵が寄進されましたが、明治時代に軸に仕立てられ、現在も金剛寺所蔵となっています（「波濤図」「山水図」は東京国立博物館寄託）。

また、応挙が父藤左衛門の依頼により描き、子息の応瑞が着色して仕上げたとされる板絵著色繋馬図も近隣の小幡神社に残されています。

応挙と同時代の偉人として、石田梅岩が知られています。石田梅岩は、東別院の東掛村出身で、京都の商家に丁稚奉公に出されますが、そこでの経験をもとに後に「心学」を開き、弟子たちによって「石門心学」として普及しました。

石田梅岩の生家は現在も残されており、梅岩の記した「都鄙問答（とひもんどう）」や書簡などは石田梅岩記念館に展示されます。

幕末に馬路村で生まれた中川小十郎は、西園寺公望の私塾「立命館」を引き継ぎ、現在の立命館大学を創設した人物であり、近代教育において果たした役割は小さくありません。小十郎の生家は、現在母屋は失われていますが、長屋門や土蔵は現存します。

現代でも、廣瀬桑田や上田正昭など多くの偉人を輩出しています。

主な構成要素



1　金剛寺山門

江戸時代を代表する画家円山応挙は、穴太村（曽我部町）出身です。幼少期に金剛寺で奉公し、後に京都の商家に出され、そこで絵画を学んだと言われています。



2　円山応挙筆群仙図①



3　円山応挙筆群仙図②

円山応挙筆の「群仙図」です。現在は１２幅の軸に表装されていますが、もともとは寛政年間に応挙が金剛寺に寄進した襖絵の一部でした。「波濤図」「山水図」とともに重要文化財に指定されています。

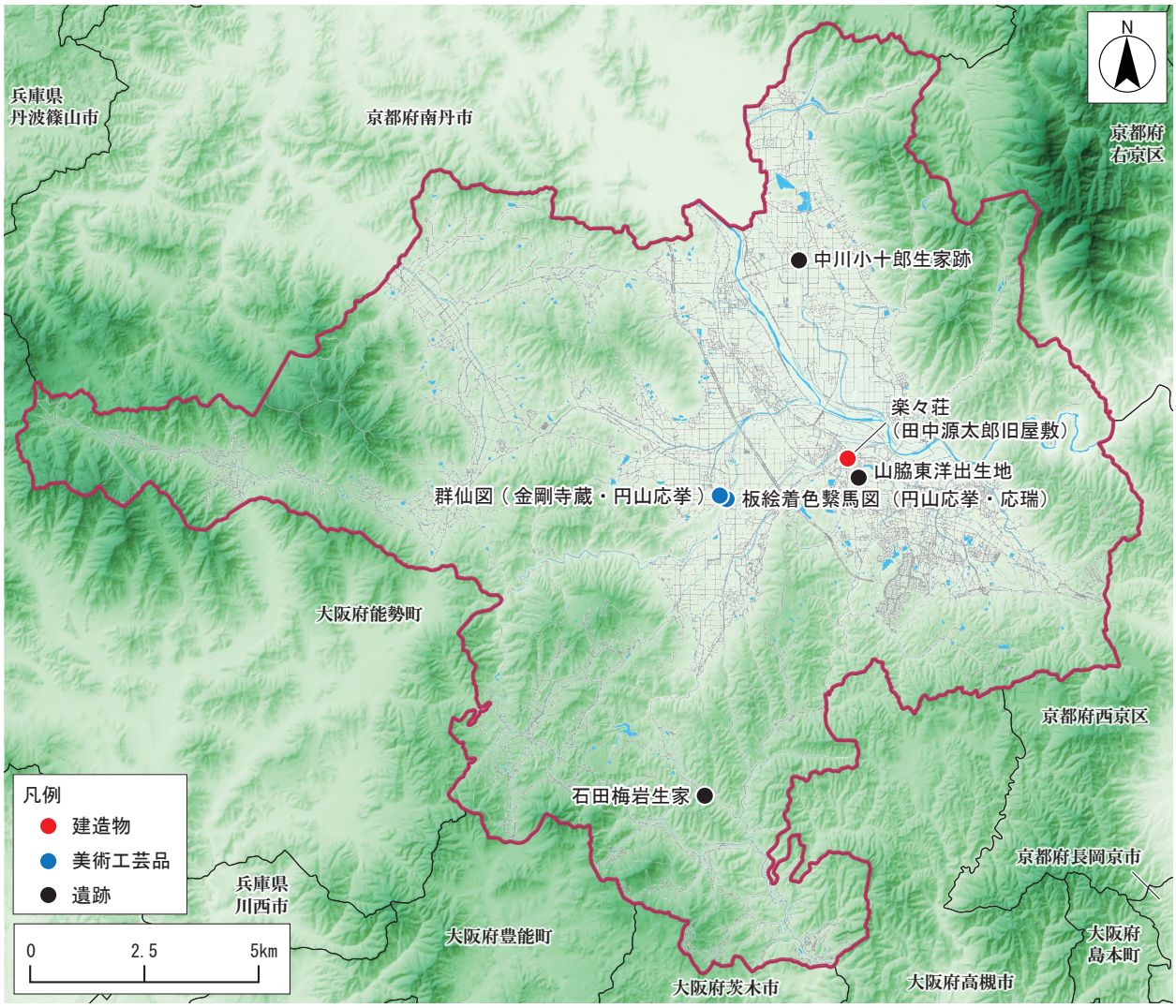


図２５　コの主な構成要素の分布図



4　円山応挙・応瑞筆板絵著色繋馬図

小幡神社（曽我部町）に伝わる絵馬。円山応挙の父藤左衛門の依頼により応挙が描き始めたものの、半ばで応挙が死去したため、息子の応瑞が着色・仕上げをしたとされます。



5　中川小十郎生家跡

馬路町出身の教育者中川小十郎の生家。中川小十郎は、「馬路の塾」で中川謙二郎に学び、その後立命館大学の祖である「立命館」を開きました。



6　上田正昭蔵書

上田正昭は、曽我部町穴太の出身で、戦後古代史研究の進展に大きく貢献しました。また渡来系民族の研究にも力を注ぎ、日韓両国の橋渡役としても尽力しました。

サ　巡礼道や信仰を介した他地域との文化交流圏

概要

亀岡の北西部には、石棚が付属する石室を有する古墳が数多く分布しますが、これは紀伊地方（和歌山県域）の紀氏との交流の可能性を示しています。

亀岡市曽我部町に位置する穴太寺は、西国三十三所観音巡礼の第二十一番札所として、中世より多くの人の信仰を集めてきました。

穴太寺の本尊である聖観音立像の縁起を記した穴太寺縁起は、郡司の宇治宮成が穴太寺の観音立像の霊験に触れ、改心して出家する逸話を記したものですが、延宝４年（１６７６）にはこれを基にした穴太寺観音縁起絵巻が描かれました。

この絵巻に描かれた本堂や山門、多宝塔、庭園は現在も残り、江戸時代から現在に至るまで三十三所霊場として信仰を集めています。

また、亀岡には、元愛宕と言われる愛宕神社があり、この本殿は鎌倉時代後期築造のものとして重要文化財に指定されています。この愛宕神社を中心として、市内各地には愛宕参詣のための石灯籠が置かれ、この維持管理のために各地に「愛宕講」が組織されています。

南接する能勢町には妙見信仰の本山があり、この信仰圏が南部の別院地域を中心に広がっています。

近年では、川東地域の七つの寺院に祀られる七福神を巡る「七福神めぐり」や各地域に現存する地蔵像なども巡礼道として注目されています。

主な構成要素



1　穴太寺観音縁起絵巻

穴太寺に伝わる穴太寺縁起をもとに、江戸前期に狩野永納が描いた絵巻。

穴太寺の観音信仰は中世以来続くもので、現在も西国三十三所の札所として多くの参詣者が訪れます。



2　愛宕神社

千歳町国分にある神社で、本殿は鎌倉時代築造で亀岡市内最古の建造物とされます（重要文化財）。ここは「元愛宕」とも言われ、愛宕信仰発生の地ともいわれています。



3　愛宕神社所蔵歴史資料

愛宕神社資料に残る絵図等の歴史資料で、本殿を正面から描いたもの。現存本殿が江戸時代からほとんど変わっていないことを示す貴重な資料です。

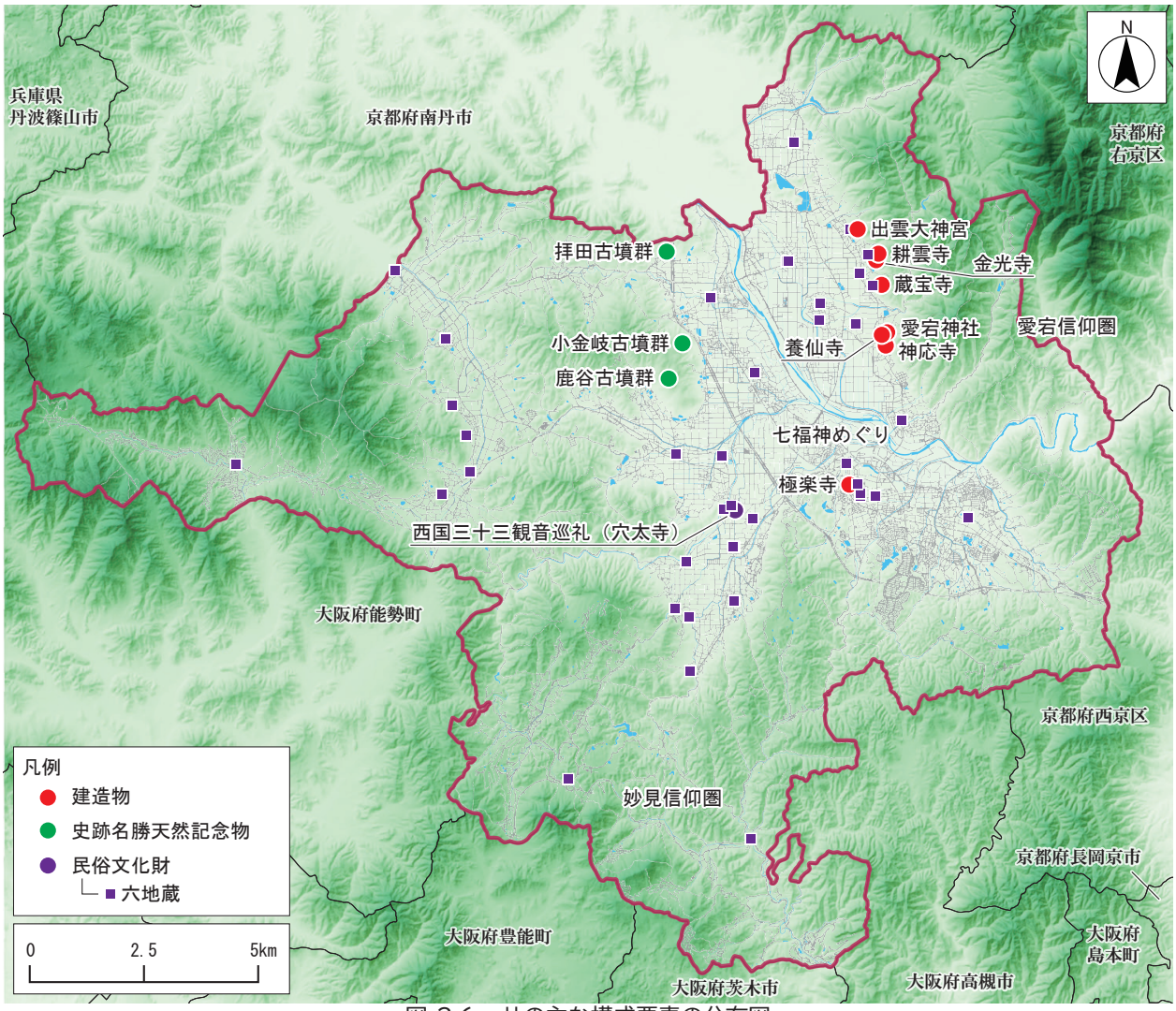


図２６　サの主な構成要素の分布図



４　愛宕講関連資料（個人蔵）

亀岡市内では、愛宕参詣道沿いに灯籠が多く残っています。

現在でも市内の各地では愛宕講が組織され、灯籠への灯ともしが当番制で行われています。



５　七福神めぐり

千歳町に点在する七福神をめぐる信仰は、江戸時代以来続くといわれており、現在も市内外から多くの人が訪れます。



６　石棚付石室［拝田古墳群］

行者山の東麓に位置する鹿谷古墳群や拝田に位置する拝田古墳群には、石室に石棚が付属する特徴的な古墳があります。石棚は、紀伊地方（和歌山県）の紀氏との交流を示すといわれています。

シ　農村の暮らしが育んだ文化・景観

概要

亀岡には、古代以来の歴史的な要因、水路や陸路、信仰を介した他地域とのつながり等に由来する歴史文化とは異なる、各地域それぞれの地形や風土に影響されて育まれた歴史文化が多く存在します。

西部の畑野町・本梅町や南部の東西別院町で営まれた生業である寒天は、山間部の標高の高さによる寒さからこれらの地域でしか生まれ得なかった産業です。平成に入るころまで続けられましたが、温暖化を原因として、現在寒天を製造している家はありません。

しかし、寒天道具や関連する歴史資料は多く残存しており、かつて従事されていた方々からの聞き取りによって、寒天製造の文化を後世に伝えていく必要があります。

また、大井町の氏子域の各地区から奉納される大井神社の立花や、愛宕神社や保津八幡宮で現在も挙行される火祭りも風土に根差した伝統芸能です。

合わせて、これらの伝統や産業と深く関わる集落の景観、神社の社叢などもよく残っており、合わせて守り伝えていく必要があります。

主な構成要素



1　出雲風流花踊り（千歳町）

毎年４月に出雲大神宮で奉納される歌舞で、氏子が雅な衣装を着し本殿前で披露します。その年の五穀豊穣を願って行われます。京都府登録文化財。



2　保津八幡宮の火祭り（保津町）

保津の火祭りは、保津町の保津八幡宮で行われる祭典で、本宮である請田神社から、頓宮社への祭神が移ることに伴い実施されます。本宮と頓宮は京都府指定文化財。



3　別院地域山間部の景観

亀岡市域には、現在も豊かな山と資源が残ります。山村地域では現在も山の保全が行われ、伐採後の野山ではシイタケの栽培等が行われています。

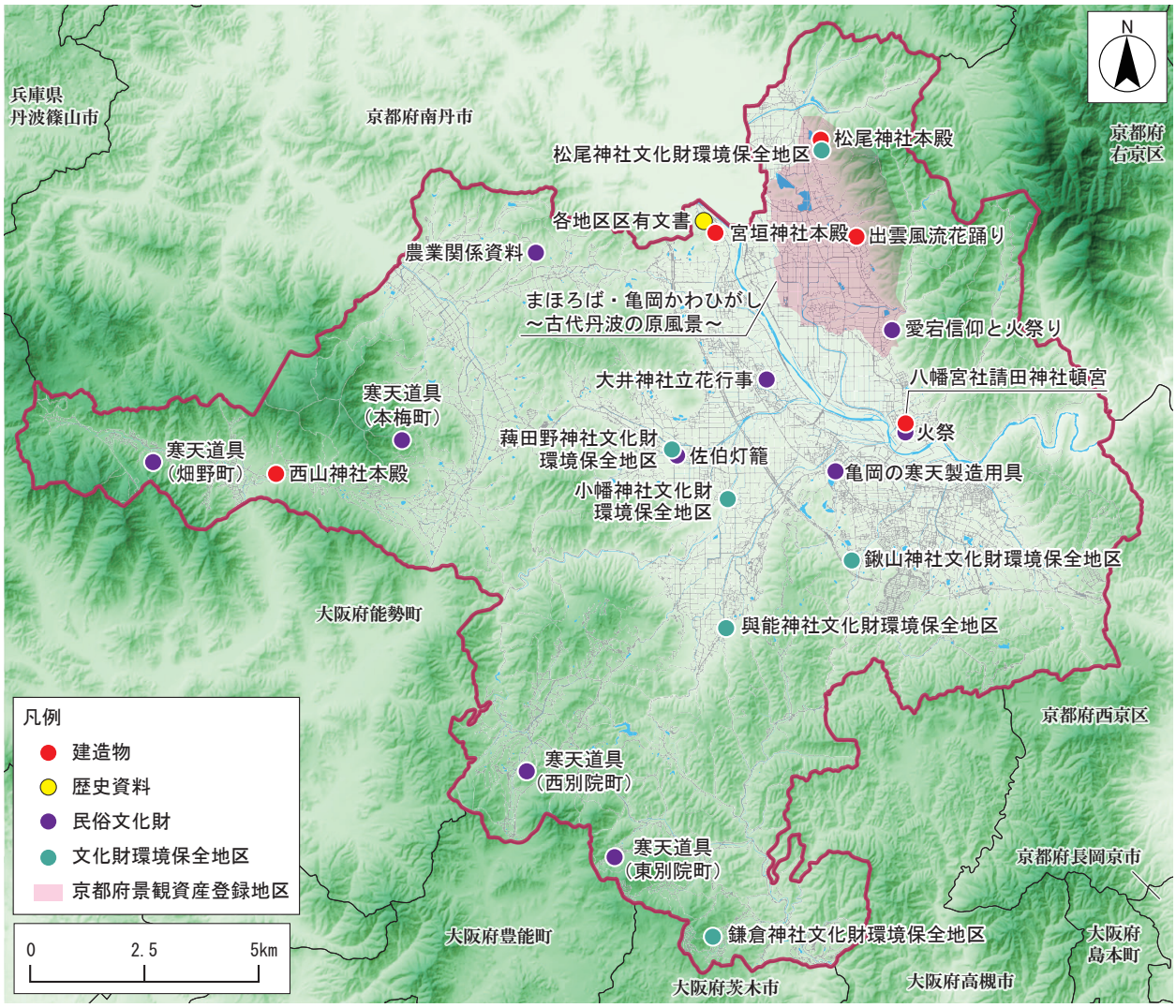


図２７　シの主な構成要素の分布図



4　犬甘野の御田

松尾神社（西別院町）で毎年５月に実施される「犬甘野の御田」は、五穀豊穣を祈って牛耕のようすを再現する祭礼で、旧来の態様をよくとどめています。京都府登録文化財。



5　佐伯灯籠

８月１４日に行われる薭田野神社・御霊神社・若宮神社・河阿神社の五穀豊穣を祈る神事と祖霊の冥福を祈る盂蘭盆の灯籠行事が結びついた行事です。国重要無形民俗文化財。



6　亀岡の寒天製造用具

かつて本梅町や畑野町、東西別院町では寒天づくりが営まれていました。現在、干場跡や作業場跡が残ります。寒天製造用具は、国登録有形民俗文化財。